

メッセージアウトライン テサロニケ人への手紙 第一5:16~18 「三つの勧め」

[16] 「いつも喜んでいなさい」

①これはイエス・キリストにあって罪赦され、救われている、神に受け入れられ、神の子とされているという事実から出てくる喜び。

②あらゆる環境に本質的に支配されることのない、キリストにある喜び。

ウェストミンスター小教理問答 問1：人の主な目的は何ですか。

答え：人の主な目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです。

キリストにあって自分の存在全体が神に受け入れられている。それゆえ、自分の存在全体、生活全体で生ける神を喜んでいく生き方。

③人生においてさまざまな苦しいことや悲しいこと、つらいことがあるのは事実。しかし、それらが繰り返し襲ってきても、イエス・キリストによって神を喜ぶ喜びを消すことはできない。

[17] 「絶えず祈りなさい」

いつも喜んでいることとともに、実際生活の中で行うべきことは、「絶えず祈る」ことである。

祈りの重要性はどれだけ強調しても強調しすぎることはない。イエスは地上におられる時は、しばしば夜を徹して祈られた。また、弟子たちも常に祈り、時には断食して祈った。→使徒13:2~3、14:23、Ⅱコリント6:5

私たちは、祈りによって願い事を神に聞いていただき、祈りによって神のみこころを知り、祈りによって力づけられ、慰められ、励まされ、祈りによって神に近づき、神と交わるのである。

思い煩うよりもまず祈ることである。祈ることによって、神に私たちの問題を知っていただき、みこころをなしていただく。そうすると平安が与えられる。→ピリピ4:6~7

信仰による祈りは働くと大きな力がある。→ヤコブ5:15~18

大切なことは、私たちの自己中心的な思いが実現するように祈るのではなく、あくまでも神のみこころがなるように祈ることである。→Ⅰヨハネ5:14~15

[18] 「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」

「すべての事」とあるように、良いことやうれしい時だけでなく、苦しみや困難や迫害がある時でも感謝することが勧められている。なぜそんなことができるのか。それは、すべての事がらが神の御手の中にあるという神の摂理に対する信仰によるものである。→ローマ8:28

「喜び、祈り、感謝」が一体となった生き方は、自分自身の力でなしうるものではなく、ただ、「キリスト・イエスにあって」のみ可能な生き方である。テサロニケ人たちだけでなく、私たち信仰者すべてはここで教えられた「三つの勧め」を実行し、神のすばらしさをあらわす者となっていきたい。